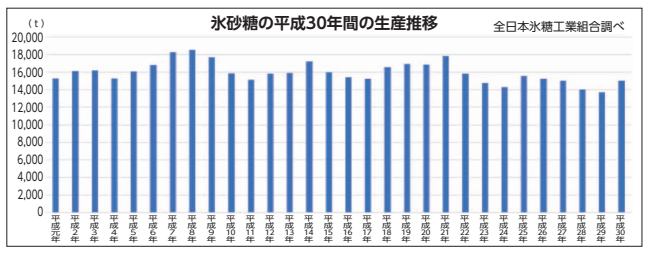
隔日刊
食品新聞
発行所　食品新聞社
http://www.shokuhin.net/
大阪市北区西天満5－10－17
郵便番号　530－0047
電話　06（6361）4972㈹
東京都中央区入船1－9－8
郵便番号　104－0042
電話　03（3552）3756-4031
名古屋市中区丸の内2－10－11
リブラ丸の内6　305号
郵便番号　460－0002
電話　052（221）5391㈹
（支局）広島・福岡
© 食品新聞社 2019
THE JAPAN FOOD NEWS
購読料　半年33,346円



氷糖商戦2019開幕

好転維持して令和へ

令和最初の氷糖商戦が開幕した。需要の大半が梅酒向け、梅シロップ向けなので和歌山などの各産地から青梅が出荷される5月下旬から6月末までが最盛期となる。昨年は3連敗（3年減）からの快勝（約9％増）となり年間出荷量も1万5千tを回復。また、今2月にテレビで「いちご酢」（いちご＋食酢＋氷糖）が紹介されるとり倍弱の販売量となり、本商戦前の景気づけにもなった。

"いちご酢"紹介で2月倍増

砂糖は平成で約26％減少したが、氷糖は1万5千t前後から1万8千tを維持している。梅酒、梅シロップ需要は漸減傾向と見られているが、それ以外の業務用や梅以外の果実向け需要が拡大したと思われる。

大健闘の平成時代から令和の初戦が開始されたが、まず青梅の生育状況は昨年並みとなっており特段の不作情報はない。これから定期的に雨が降れば果実が大きくなり立派な青梅が売場に並ぶことになる。

昨年は記録的な酷暑となる前兆が5月頃からあり、気温が高いために商戦の前倒しが予想され、実際にそうなったが終盤戦も延長され結果的に長い販売期間で存分に戦うことができた。今夏も昨年同様の酷暑となるかどうか。ちなみに昨冬は暖冬で海藻類が極度の不振となった。そうした予測しづらい天候と売場を睨みながらの商戦になるだろう。

また、弾みをつける出来事もあった。2月放映のテレビ番組で「いちご酢」が紹介された。高血圧、中性脂肪、コレステロール、便秘症状に効果が期待できると解説。作り方は簡単で食酢にいちごと氷砂糖を漬けるだけ。梅酒作りとほぼ同じ要領だ。また、瓶に入れて漬ける様子が鮮やかで〝インスタ映え〟の評判を得てSNSで拡大。おかげで2月のオフシーズンだった氷糖販売が2倍弱の売れ行き（中日本氷糖）になるなど特需もあった。

もともと氷糖組合ではゆずや金柑を使った氷糖漬けをPRしてきたが、インスタではいちご以外にもレモン、キウイなどさまざまな果実を漬ける様子も紹介されている。今後も梅酒需要が多くを占めるだろうが、果実別の漬け込み瓶の鮮やかさなど、作る過程をゆっくり楽しめることに気づいた新たな消費者の獲得も期待できる流れだ。飛躍の令和になるか、年間消費を占う梅酒向け商戦がスタートした。

北海道産のてんさい糖から生まれたオリゴ糖
ヨーグルトにヨーグル糖
オリゴ糖（クストース）含有シロップ
製造元 加藤美蜂園本舗

きょうの主な内容
「GMS、SM各社の動向」（総合流通特集PART2　6～12面）

多数の業界人に栄誉
春の叙勲

令和元年春の叙勲が発表され、多数の業界関係者が栄誉に輝いた。本紙関係の受章者は次の通り（敬称略／順不同）。

旭重
浦野　光人氏（元ニチレイ社長）
藤井　良清氏（元日本ハム社長）
清水　順三氏（元豊田通商社長）

旭中
今村　隆郎氏（元日清オイリオG社長）
古川　紘一氏（元森永乳業社長）

農林水産省関係
旭日重光章＝浦野光人（元ニチレイ社長、元日本冷凍食品協会会長）、藤井良清（元日本ハム社長、元日本ハム・ソーセージ工業協同組合副理事長）▽旭日中綬章＝今村隆郎（元日清オイリオグループ社長）、中山嘉昭（全国水産加工業協同組合連合会代表理事会長）、古川紘一（元森永乳業社長）▽旭日小綬章＝山口義弘（全国清涼飲料協同組合連合会理事長）▽旭日双光章＝下堂園豊（元鹿児島県茶商業協同組合理事長）、森勇人（神奈川県パン協同組合連合会会長）▽旭日単光章＝堀口泰久（鹿児島堀口製茶社長）

浦野氏

今村氏

山口氏

経済産業省関係
旭日重光章＝清水順三（元豊田通商代表取締役社長）▽旭日双光章＝三澤茂計（中央葡萄酒代表取締役、山梨県ワイン酒造組合副会長）、西野武明（元西野金陵代表取締役社長）▽旭日単光章＝松田好亘（おやつカンパニー会長、おやつタウン社長）、和田悦治（元和田萬商店代表取締役社長）

財務省関係
瑞宝小綬章＝伊藤清（元酒類総合研究所酒類理化学研究室長）

厚生労働省関係
旭日小綬章＝壽山勉（元島根県食品衛生協会会長）▽旭日双光章＝岩田東一（東京都食品衛生協会副会長）、古賀毅（元福岡県食品衛生協会会長）、佐々木修司（全日本司厨士協会副会長）、高木茂平（茨城県食品衛生協会副会長）、前田洋三（和歌山県食品衛生協会副会長）、三上文四郎（元岩手県食品衛生協会副会長）

松田氏

逆光線

令和のスタートから3週間あまり。大型連休も終わり、祝賀ムードは一息ついた。気象庁の予報を見ても、向こう1か月の気温は平年よりも高くなるようだ▼5月下旬に入り、梅雨入りし、21日にかけては、全国的に雨に見舞われた。長雨の季節は目の前に迫っている。一方、気温は全国的に高いようだ。気象予報を見ても、向こう1か月の気温は平年よりも高くなるようだ▼5月下旬に入り、夏バテ対策や熱中症対策を含む夏場の需要を見込んだ商品やメニューを投入する動きが広がってきた。夏場は、仕事にとっては、チャンスの時期だが、個人にとっては、体調に気をつけたい季節でもある。万全の体調で不透明感や不安感の強まる時代に向き合いたい。

新代表に高村祐輝常務
創業70周年控え新体制に
●ケンミン食品●

高村祐輝新社長

ケンミン食品は5月17日開催の定時株主総会において、代表取締役社長の交代を決定した。新代表には高村祐輝常務取締役が昇格。高村一成社長は、代表取締役会長に就任した。

同社では前期に過去最高売上85億円となり、さらに今期は主幹事業のビーフン製造を行うタイ工場で3工場目となる新工場を稼働、味付け済み即席ビーフン「ケンミンの焼ビーフン」の米国初進出、アジアへの拡売を計画。来年に創業70周年を迎えるにあたって、新体制でさらなる社業の発展を目指す。

◇　◇

高村祐輝（たかむら・ゆうき）新代表取締役社長の略歴　1982年生まれの36歳。兵庫県出身。2005年に関西学院大学経済学部卒業。05年4月京セラ入社、08年6月ケンミン食品入社、11年KENMIN FOODS（THAILAND）CO.，LTD.・MANAGING DIRECTOR。15年5月取締役総務部長兼管理部長兼外食事業部長。17年5月より現職に就任。

（2面に関連記事）

新社長に藤田取締役
下嶋氏は相談役に
●日東富士製粉●

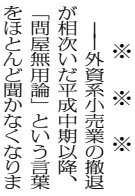
日東富士製粉は20日開催の取締役会で、藤田佳久取締役の社長就任を決めた。6月27日付。下嶋正雄社長は退任し、相談役に就任する。

◇　◇

新社長の藤田氏は1963年生まれ、55歳。86年三菱商事入社。03年飼料ユニット統括マネージャー、08年澱粉・ビールユニット統括マネージャー、14年生活原料本部糖質部長、16年生活消費財本部製粉糖質部長、16年4月日東富士製粉非常勤取締役、19年取締役執行役員特命担当。

藤田新社長

卸流通の進化とこれから
難局打破へ協調を
世の中は平成以上に変化



國分勘兵衛　平成を語る《10》

平成期は日本の卸売業が近世以来最大の進化を遂げた時代でもある。特に食品卸は平成の幕開けと同時に物流・情報武装を強力に推進し、流通の効率化を牽引するとともに、サプライチェーン全体のデフレへの耐性を高めた。しかし、主要大手の物流機能が横一線に並んだ平成中期以降は収益確保の道幅を狭められ、その後の物流需給の逼迫と相まって困難な経営を強いられている。縮む国内市場で持続可能性を高めていくためには、平成後期に部分的に具現化した協調路線を広げていくよりほかにない。

※　※　※

――外資系小売業の撤退が相次いだ平成中期以降、「問屋無用論」という言葉をほとんど聞かなくなりました。卸の役割や機能に対する認識もだいぶ深まりました。食品や日用品の卸にとって、平成は近世の問屋成立以来最大の発展期だったのではないでしょうか。

「確かに業界全体の売上げ規模は広がりました。ただ、統計上の事業所数はかなり減っているので、社会変化に上手く対応できたところが残ったということでしょう。既に申し上げてきたように、平成は環境変化への対応が非常に難しい時代でした。わが社の力だけでは小売サイドの急激な変化に追いつけなかったと思います。再編成によって卸全体で世の中の流れに対応できたことが、今日の評価につながっているのではないでしょうか」

――物流面でも小売業の変化に鍛えられました。

「昭和の終わり頃からコンビニ・スーパーを中心に小口多頻度の配送要請が増えていましたが、そうした動きにITを駆使して適切に対応できるようになりましたわけですが、垣根を超えた最適化競争を経て、物流・インフォレックス（JI）を設立しました。コストについては卸に任せるのが一番効率的だという流れになりました。サプライチェーン全体の情報を見ながら調整・最適化を図る卸特有の機能を発揮できたのが大きいと思います。わが社は重複業務の削減に向けて主要各社がスクラムを組むのは画期的なことでした。他業界ではなかなか考えられないことです。

「JIIは真に機能する業界環境が一段と厳しさを増しているので、協調すべきところは協調しましょうということです。既に複数のメーカーや卸による共同配送が活発化していますが、他にも協調できる部分は多いと思います。人口減少社会の中でサプライチェーンの持続可能性を保つためにも、この気運を高めていく必要があります」

――最後に令和時代の食品業界に期待することを。

「やはり、世の中の変化に後れを取らないことです。平成の後半からAI・IoT・ロボティクスなどの先進技術が飛躍的に進化し、ソサエティ5・0というメッセージを久々に発信されていましたね。

「人手不足が叫ばれてもすぐには答えられません。私たちが歩んできた平成時代以上に変化のスピードは速まると思います。その方向をしっかりと見極め、流れに食らいついていくしかありませんね」

――長時間ありがとうございました。

（了）